

会 議 録		令和 7 年12月20日作成	令和11年 3 月末日廃棄
会議名	京都府田辺警察署協議会（令和 7 年度第 3 回）		
開催日	令和 7 年12月15日（月曜日）		
時 間	午後 1 時30分から午後 3 時までの間（90分）		
場 所	京田辺市立社会福祉センター 第 2 研修室		
出席者	松井会長、垣内副会長、花木委員、藤ノ井委員、今井委員、北見委員、中川委員、 （欠席 田中委員、柳委員） 計 7 人		
	署長、副署長、会計課長、警務課長、生活安全課長、地域課長、刑事課長、 警備課長、広聴・相談係長 計 9 人		
諮 問 事 項	効果的な警察官採用勧奨活動について		
会 議 内 容	<div> <div>1 会長挨拶</div> <div>司会 副署長</div> </div> <div> <div>2 署長挨拶</div> <div></div> </div> <div> <div>3 協議</div> <div>司会 副会長</div> </div> <p>諮問事項説明</p> <p>効果的な警察官採用勧奨活動について～警務課長</p> <p>【委員】ここ数年、役場でも採用活動が厳しくなっている。</p> <p>一般行政職はまだ応募があるものの、技術職等の専門職の人材確保は極めて困難になっている。</p> <p>若手職員に「警察官への就職についてどう思うか。」等聞いてみたところ、「覚悟がいる仕事だ。」「厳しそう。」「大変そう。」等言っていた。</p> <p>また、警察官は体を鍛えていなければならないイメージがあり、一般の若者にとって、就職へのハードルが高い職種だと感じている。</p> <p>しかしながら、先ほど警務課長から、「京都府警察の育児休暇や有休休暇の取得数」について説明があり、一般行政職と比べて極めて取得数が多かった。</p> <p>警察は休みが取りにくいというイメージがあるが、実際にはそうではないということだ。今の若者は休暇取得に関して関心が高いので、もっと広報した方が良いと思う。</p> <p>また、若手警察官をリクルーターとして広報させる制度があると説明があったが、母校への働き掛け等だけではなく、採用勧奨の広報チラシや SNS 等で「若手警察官の一日（公私問わず）の状況」「休暇の有効活用状況」等を</p>		

情報発信しても良いのではないかな。

そのほか、警察官採用で加点があるような柔剣道等の部活動経験者は、警察官に向いているので、そのような部活等へのアプローチも有効だと考える。

先日、騎馬隊の警察官が幼稚園児向けの交通教室で説明を行ってくれ、園児達が目を輝かせて騎馬隊隊員等を見ていた。

このような特殊な立場の警察官と子供たちの関わりも、中長期的な警察官採用勧奨活動に有効だと感じた。

【委員】警察と違い、消防は今でも人気が高く、採用試験の倍率は30倍程になる。

警察の人気は小学生には高いが、中学、高校、大学と進学するに伴い低下しているように思う。

中学生以上への、警察活動や京都府警察の現状等についての正確な情報発信が必要なのではないかな。

また、もっと職種等のターゲットを絞った勧奨活動を進めるのも良いのではないかな。

消防は、誰もが日々何をしているのか分かっているように思う。

しかしながら、警察業務は本日説明を受けても、地域警察、刑事警察、交通警察、警備警察等、業務が多岐にわたり、実際の具体的な業務がよく分からないところがある。

だからこそ、大学等で「サイバー犯罪対策」や「鑑識活動」等に特化した業務説明会等を行えば、それらの分野に興味がある尖った才能がある若者達が関心を持って話を聞きに来るのではないかな。

そのほか、消防では若手警察官にSNSによる情報発信を担当させ、決裁の取り方を見直し、若手がスピーディーに情報発信出来るようにしたところ「バズる」コンテンツが出てきたりしている。

現在、消防士希望者が救急救命士の資格を持って受験してくることが多く、京都府内の救急救命学科のある大学からの受験者も多い。

救命を志す学生の中には、災害救助等の警察活動に関心がある者も多いのではないかなと思うので、そのような大学へのアプローチも有効ではないかな。

【委員】私は民間企業の店長をしており、就職面接も担当している。

今の若い子は、ワークライフバランスに重きを置いていると感じる。

今日お伺いした京都府警察の年休取得数には驚いた反面、もっと周知、見える化をすれば、その採用勧奨活動には有効だと思った。

警察という仕事は拘束時間が長いというイメージが強く、そのイメージ脱却のため、きっちり情報発信した方が良い。

また、警察は幼い子から「格好良い」と思われているが、年長になるにつれ、「危険な仕事」と認識され、就職先としては敬遠される傾向にあるように思う。

危険があるのは間違いがないと思うが、その対策等も含め、マイナス面もしっかり情報発信し、業務の「見える化」をした方が採用活動的に良いと思う。

スーパーの職場体験等に来る前の学生は、何をどのように売っているのか全く分かっていないが、職場体験等を通じて表面上見えない部分を理解すると、小売業を将来の就職先として考えてくれる学生も出てきた。

【委員】一日警察署長のイベントは見たことはあるが、中高生を対象とした職業体験等をどれ位行っているのかよく分からない。

そのような体験等を受けていない中高生は、本当の警察の現状がよく分からず、ドラマから警察をイメージし、警察学校が「厳しい」「大変」という印象を持っていることが多いのではないかと思う。

消防では、訓練の状況をInstagram でアップロードされているが、警察のSNSでそのような状況がアップロードされているのを見た覚えがない。

SNS等で、若手警察官が、休暇日を友達と楽しんでいる姿等を発信して、若者に警察官の日常を知ってもらえば良いのではないかと思う。

【委員】ドラマのイメージでは、警察学校での生活が大変だというイメージになるのは分かるが、今の時代、警察学校も昔よりは厳しさは抑えられているのではないか。

【警察】警察学校の生活は、必要な規律を身につける等、適切な指導がなされている。

【委員】子供たちは、まず「格好良い」から将来の職業を考えるのではないか。

子供たちが年を重ね反抗期を迎えると、少年補導の現場等で、怒れない親の代わりに警察官が子供が指導する機会も出てきているようだが、耳が痛いことを言うてくる警察官に反感を持つ子供もいると思う。

警察官が、いつも自分達を危険から守ってくれているということをもっと子供たちに分かってもらうことが必要なのではないか。

【警察】当署では、小学生の施設見学や中学生の職場体験学習の積極的な受入れを行い、警察活動への理解を深める活動を行ってる。

後日、その感想文等をいただくことが多く、本日はこの会場にその一部を掲出等させてもらっている。確かに「警察が 365日、僕たちを守ってくれていることが分かった。」等の感想を書いてくれることが多い。

これからも、このような活動を有効活用していきたいと思う。

【委員】クラスで面白い子がいれば、友達の中で「お前、芸人になれや。」等勧められることがあるが、「お前、警察官になれや。」等と勧められることはあまりないように思う。

身近な人から、警察官になるように勧奨する活動が有効なのではないか。

自分だけで「警察官になる。」と意思を固めるのは難しいところがあるように思う。

警察官が若者等の対応をした際に「君、警察官向いていると思う。」等と声を掛け、その背中を押すような関わりをすれば、警察官になろうと思う方もいるのではないか。

【委員】今、息子は京都府警察の警察官としてお世話になっている。

そのきっかけは、10年程前、息子がまだ岐阜県で学生をしていた時に、私

会 議
内 容

が大先輩から「息子さん、将来、警察官か消防士はどうか。」と声を掛けていただいたからである。

その声掛けを機に、私は息子に警察官採用試験について声を掛けたところ、息子は警察官に関心を持ち、岐阜県警察と京都府警察（田辺警察署）で話を聞いた。両府県共、相談をした警察官は息子にとっても親身に話をしてくれたと聞いている。

田辺警察署では、当時、面接試験の練習まで付き合ってください感謝している。

警務課長の説明で、若手警察官が母校で警察業務の説明等行っていると聞き、効果的な活動と感じた。

また、警察学校での生活は厳しさがああり、そこでの生活を心配する親もいるので、保護者も対象として、業務説明や採用試験の相談に対応している田辺警察署の取組も良いと感じた。

【委員】若者にアプローチするのに「誰でも良い」というのではなく、「貴方だから出来る」「貴方だから将来一緒に仕事をしたい」というアプローチをすれば、警察官になるか悩んでいる若者の背中を押す力になると思う。

【警察】多くの御意見については、本当にありがたく思う。

当署で出来ることは前向きに進めていき、京都府警察本部に確認が必要なものは確認を取って対応していく。

本日、警察学校が厳しいイメージがあるとお話があったが、私自身、昭和59年当時、1年間同期生と共に、警察学校で確かに苦しくしんどい時間を過ごしたが、そのお陰で、同期生とのかけがえのない絆も生まれた。

警察人生42年間、府内の各所属を転々としたが、行く先々で同期生がいると安心したものである。

このように、警察学校の生活は厳しいだけでなく、良いところもあるものである。

また、SNS等での発信の話もあったが、警察は様々な方の個人情報に触れる仕事でもあるほか、警察官個人を守る観点等からも、何を・どこまで・どのように発信出来るかは、府警本部とすり合わせながら発信していきたいと思う。

その他、本日御意見いただいたとおり、休暇取得数等、ワークライフバランスに関わる情報もしっかり情報発信し、効果的な警察官採用勧奨活動につながるようにさせていただく。

4 事務連絡

令和7年度第4回京都府田辺警察署協議会は、令和8年2月に実施予定である。

以上

第3回京都府田辺警察署協議会の開催状況

